

MIDI教室

パソコンを楽しもう 講座運営委員会委員長 中丸哲子

講師 須佐卓郎

使わなければただの箱

ですが、パソコンは魔法の道具です、音も出ます。音楽にはみなさんご存知のとおり約束事が沢山あります。パソコン操作と併せて、楽典（音楽理論）を知り、五線譜に描かれたおたまじゃくをパソコンへ移し変えるテクニック（デジタル化）を学ぶものです。

仮に、音痴という人がいるが、音を聞く機能が弱いだけで、MIDI教室では歓迎します。音をデジタル化する過程で、音を聞く機能が復活して、たくましく音感に優れた人となるでしょう。

教室では、楽典を元に作成した音楽を聞ける喜びがあります。自分で作成した音楽を聴けば無上の喜びを覚えるでしょう、娘が生まれた時と同じ感動に浸ることができるでしょう。

- 1、講座名 「MIDI 教室」
 - 2、実施日時 毎週月曜日 13:00～14:50 (月3回)
 - 3、実施場所 荘島町SNK教室
 - 4、内容 パソコンの画面上にメロディを楽譜に打ち込みその上にコードを入れ、アレンジエクスプローラから、演歌や、ジャズ、ロック、オーケストラ等々の素敵な伴奏をアレンジする方法を学びます。
- ・楽器の種類も1116と豊富でドラムなどもつけることができます。ビートルズやベンチャーズになれます。
 - ・一人で、オーケストラを演奏することも可能。指揮者になった気分を味わえます。
 - ・ステレオ効果をだし、臨場感を出すやり方なども学びます。

講師からひとこと

画面にある音符表から楽譜通りの音符をドラッグするだけで音楽が取り敢えず聴けます。勿論、ニュアンスをつけるテクニックも後日必要ですが。ノートパソコンを持参下さい。備考：今回は「ブログ講座」を予定（中丸）

【3】適当な位置で自分で改行しましょう
ウィンドウの幅で本文が折り返されるのが普通だと思っている人が多いと思いますが、そうとは限りません。
改行されるまで延々と右に読み進まないといけないものや画面の幅を超えた文字はどうやっても見ることができないものもあります。
ただ、この場合でも日本語 40 文字（半角英数 80 文字）は表示できます。
自動改行機能では返信で引用した部分の行末が次の行に送られてしまいます。
2～3 回引用されることを見越して少し短めに、つまり 35 文字程度で意識的に改行すると見辛くなりません。

アートだよ、会員の活動状況

21 回サムホール展入賞 珠理（江口ユキ子）さん
山本文房堂サムホール展おめでとう。（紹介：クルミ）
福岡県展、写真の部 古賀スミカさん
「髪飾り」おめでとうございます。（紹介：新田辰生）
福岡県展、「洋画の部」 井手元子さん
「筑後川」で入賞（朝日新聞社賞）を受賞されました。
おめでとうございます。（紹介：杉野コスモス娘）
佐賀の農村風景 のばら（中丸哲子）さん
「肥前の棚田」（棚田大賞）とはすごい、おめでとう。
自然を切り撮る技が光ります。（紹介：一ノ瀬尚文）

メーリングリスト委員会から

委員長 和田豊郁

第2回 転送や引用について

【1】転送について

電子メールは簡単に人に転送できてしまいますが、文章には著作権がありますので、著者の許可が必要です。特にメンバーに誰が含まれるのかわからないメーリングリストに転送する場合には、とりわけ注意が必要です。

誰かを面白可笑しくからかったような文章を紹介したら、当の本人に届いてしまう、などということは笑い話では済まされないかもしれません。

【2】返信する際の引用のしかたについて

届いた電子メールに対して返信する際、どのメールについての返信なのかを明確にするために、あるいは、相手が削除しているかもしれないから、と全文引用をして送り返すと、個人対個人ではたいした副作用は生じませんが、メーリングリストでは、話題が盛り上がると新たな本文は1～2行、それに何十行もの前に見た文章が続く、ということになり、しかも、何人もの署名が含まれたりすると、いったい誰が書いた文章なのかわかり辛くなってしまいます。

そういうわけで何についての返信かわかるような部分を残して後は削除するようにしましょう。

（編集部）筑後平野は筑後川とともにあり、川の流れとともに暮らし・物語・伝説・言い伝えを生み今に生きてきた。古くて消えそうな話や古い書の一部を残す努力は「SNK 筑後デジタルアーカイブ」で実を結んだ。（弐）



編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長 今津一躬
久留米市荘島町 13-1
TEL 0942-46-2277

わが健康法とSNK 副理事長 小島 紀夫



出身は長崎県ですが 20 年前久留米市に造った家があり、久留米の住人になりました。この地に住む友人の勧めもあり、定年後、迷うことなく SNK に入会しました。学生時代の友人や仕事上の関係者しか知らない「よそ者」だった私にとって、シニアネットは「居心地良い場所」でした。理由は二つあります。一つは多芸多才な人が多いこと。二つ目は「遊び心」を感じさせる行事や集まりが沢山あることです。その典型である「SNK 美味かもんば喰う会」や「市の呼びかけにこたえる各種イベント」への参加です。

私の定義では「健康とは、健全な精神と肉体をもち、しかも社会生活に適応している状態」を指します。まずはメタボを解消するために運動することだと反省して、ウォーキングを考えた。始めてみると、高良山参道、筑後川河川敷など久留米はウォーキングに絶好の場所がたくさんあることに気づきました。努力の甲斐あって減量成功、だが人生に酒あり、これも楽しみたい。

久留米市と福岡安全センター、そして SNK の協同で「ここにこステップ運動」のリーダーを仰せつかり、今日までウォーキングとステップ運動の併用でひたすら身体をいじめています。

子どもや孫の教育、老後を支えるはずの年金問題、複雑な世の中で健全な精神状態にあることは大変難しい時代です。シニアネットの一員として「美味かもん：芋煮会」の催しに参加することが少なからずストレス解消に役立っています。表題に「わが健康法とSNK」と書いた所以です。

中核都市・久留米市から「シニアライフに彩りを」と平安を願い、SNK は心をこめて発信しています。生きがいや、やる気を提供できる組織として更に発展することを願っています。

私の1枚

川辺りのススキ・・・傑作

久留米市の東部にあたる田主丸地域は春夏秋冬、いつでも素晴らしい風景を見ることが出来る。田んぼから仰ぎ見る耳納連山、豊かな水をたたえた筑後川、そして巨瀬川、古川、風情のある景色が広がります。川は流れ、そこに古い歴史をたたえた自然があり草花が繁る風景に私は感動しています。ススキが川辺に繁茂する景色に見とれました。
福岡県の「100 年後に残したい自然の写真」にこの地の東本川から山辺の風景を応募し、賞を頂きました。（木原伸敏）



「筑後デジタルアーカイブ」は、財団法人「地域総合整備財団」<ふるさと財団>の「平成14年度 e-ふるさとパイロットプロジェクト」に応募して採択され、助成を受けた事業です。この事業は地域に存在する貴重な歴史遺産や郷土資料、文化財などをデジタル化して後世に継承していく事を目的としています。

尚、このHPは全国で助成を受けた15団体のHPを慶応大学加藤教授他有識者で審査会が開かれ、見事にSNKがオールAの評価を頂き第1位になりました。

筑後川・矢部川流域歴史探訪、神社仏閣、文化遺産、祭、伝統芸能、筑後三十三ヶ所観音霊場などの取材とデジタル化、また世の中から忘れ去られた本や、図書館や家庭で眠っている貴重な本をデジタル化し「電子図書館」としてインターネットで読めるように公開しています。

SNK デジタルアーカイブ

アーカイブとは「記録や資料などをひとまとめに整理された資料群のこと」です
国立国会図書館のデータベースに登録されました

- 筑後・久留米の歴史探訪
- 久留米城物語
- 筑後国一ノ宮高良大社
- 筑後川・矢部川流域
- ・歴史探訪
- 筑後三十三観音霊場
- 昔の道具・懐かしい道具
- 久留米市文化財マップ
- 篠山城古碑探訪
- 電子図書館
- 田中吉政公とその時代
- 高良山物語
- 日向神紀行
- 筑後川を下る
- 久留米城の防御体制
- 山土産
- 御井町誌
- ふるさと徳童
- 矢部村誌
- 安長禅寺物語
- みのうの豆本
- 大城村郷土読本
- 大木町誌
- 久留米ん昔物語

SNKデジタルアーカイブは2002年4月に研究会が発足し、須佐卓郎さんや故渡辺正義さんを指導者に、多くの会員の方の熱意と情熱によって出来上がったものです。(第1期研究会)

シニアネット久留米草創の時代から培った技術は、筑後平野をアーカイブ事業の先進地域へ導きました。その成果は現在、国立国会図書館のデータベースに登録(2009年6月)され、日本はおろか世界の果ての人まで何時でも誰でも見ることができます。

先達の須佐先生たちの指導を仰ぎ、方々に散る筑後平野の昔の暮らしを拾い集め、電子文書化して子孫に残す、この榮譽を引き継ぐべく平岡さんを筆頭に10数名が第2期研究会として現在活動しています。

町に伝わる話や方言が語る物語が消えないうちに、話を集めて筑後平野の宝として残す、そこには確かな満足が待っているはず。そこでは小学校を訪ね、昔の話を集めたCDと一緒に見る楽しみがあります。バトンは第2期研究会へ、活躍が期待されます。

2期生のみなさんへ「デジタルカエル」を可愛がって下さい。まだ若々しい須佐さん

デジタルカエル



第1期



第1期アーカイブ研究会 須佐卓郎

この度のSNKの電子図書館が国立国会図書館のデータベースに登録されたことは驚きでもあり、またとない喜びでもある。他のデータは行政や大学の作ったHPなのに何故民間のしかも素人が作ったHPを取り上げて頂いたか不思議な気持ちもする。

思い出せば9年前、ソフトの進歩によりHPが手軽に出来るようになったので、久留米の歴史をデジタル化して全国に紹介しようと思い、MLで呼びかけた所、10数名の歴史好きのメンバーが集まった。その中に歴史学者で元有馬記念館長I氏がおられ、いろいろ資料を頂いた。それを元に各人が手分けして今の久留米城のHPが出来上がった。また、神社仏閣のページも写真の撮影や資料の収集を手分けして集め纏めた。島井・広津・今津各氏は自転車で善導寺や星野まで行かれたものである。その過程の中で、7代藩主頼(イ童)公が創立された、筑後観音33ヶ所が有ることを知り、手分けして撮影や由緒を調べてHP化。完成時にはメンバーで3日掛けて全寺をお参りしたのも楽しい思い出である。

そのうち久留米だけでなく筑後、即ち筑後・矢部両川の流域33市町村(当時)すべての歴史を紹介するHPにすることに話が広がり、各地に特派員的人事を決め、それぞれの行政や神社仏閣その他資料を収集頂き、本部に故渡辺氏をトップに制作班を設定、完成させた。

電子図書館は大きく分けて写真や資料を自分たちで収集して作ったものと、既製の本をデジタル化したものとに別れる。三井町史や矢部村史は自慢できる作品であり、ガリ版刷りで、判読に苦労した大城村史も価値ある資料と自負出来る。

当時のメンバーも数名は故人となられ、また会うことも少なくなった。いつの日か同窓会を開き、苦労話や仕残した作業の話に花を咲かせたいと思っている。

第2期



メンバーの定例会議 顔合わせが楽しみです 昔々の物語をデザートに至福の時間を過します

第2期アーカイブ研究会 平岡清志

久留米市図書館にてチームは集まり会議を重ねました。たくさんの資料の中から、現在、進行中の「久留米ん昔物語」をアーカイブに取り上げることが決まりました。

デジタル化候補作品「久留米ん昔物語」松田康夫著の著作権交渉にいい、遺族の好意ある了解をとり「著作物のデジタル化及びHPに上げ公開すること」の許諾を得ています。

チームはHPのリンク切れやデータのメンテナンスを進めています。メンバーが手分けして取り組んでいる『久留米ん昔物語』もやがて完成します。読めば、教えられることも多く知らなかった昔の話は怖くて面白い、秋の夜長の読書を楽しんでいます。筑後・久留米の歴史物語14番目の作品となります。

デジタル化題材を決める

チームは、何をデジタル化するかについての検討から入りました。その結果デジタル化の題材は、自分たちの身近なもので作業の過程において自分たちも楽しめるものにする。

本を探す

久留米市の図書館へ出向き目的にかなった資料や本を探すことから始めました。私たちは「ちっこ弁」で書かれた本を見つけました。

ちっこ弁の話

「久留米ん昔物語」(松田康夫著) ツールを使い、イメージデータをテキストデータに変換。最終的に変換ツールでは処理できなかった文字や、誤って変換された文字および記号の修正を手分けして行ないます。

HPに揚げる

一般公開用のホームページに載せる作業に取り掛かります。既にホームページのサンプル作りが済み、膨大なアーカイブ完成です。

町の探索、事実の再発見

これまで6回の会議を行い、作業における苦労話もさることながら、この本の面白さが話題になりました。「久留米ん昔物語」の舞台である町の探索を計画しています。

地域へ、読み聞かせボランティア

昔ん物語が存在する町の小学校へシニアは出かけて行き、読み語りのボランティア活動「久留米ん昔物語」を語り部となって広める。SNKの会員が活躍できる地域貢献の場を考える。地域や子どもたちと交流を図る。

メンバー紹介

- ：「久留米ん昔物語」町名ごとの作業担当です。
- 太郎原～津福今町 田中稔さん
「物語に出てくる土地は、昔の古い地名が多く、もう既に消えた懐かしい名前をプロットして、古い地図を造って見るのも面白いだろうね」
- 寺町～南薫町 平岡清志さん
「地名や塚について、読むほどに興味を感じたし、土地にあるいわれが分かります。自分の住む町に、こんな悲しみや笑いや人情があったと、感激する場面もありました」
- 西町～南町 高木保幸さん
「面白かごたるけん、あんまりようわからんまんま参加したと。方言で書かっちゃった、各人20ページくらいのテキスト化された原稿ば、ワードで、修正せにゃんところを直して保存。ようやく第一段階が終ったところですよたい。(いろいろ勉強になったばい)」
- 御井町 太田千鶴子さん
「話を読んでみると“昼夜くりくり”という言葉が出てきました。意味が分からないが祖父母の語りを聞いているようです」
- 宮ノ陣町 金子忠次さん
「受け持ちは私の住んでいる地区ですが怖い話が沢山出てきます。昔は殿様中心で、庶民は大変に泣かされていますね」
- その他町村 中村忠敏さん
「方言が語る物語についつい引き込まれていました。チームでも年長だから方言が良く理解できます。だが、接続詞として使われている言葉には、意味不明も出てきます」